

三商レポート

第九十八話「宝物」

相続フラザ (株)三商 内藤 雄

前話で、私自身の末期がんを公表したところ、読者から励ましのメールをいくつかいただきました。今の私にとっては、何よりの励みになる嬉しい内容でした。

- ・ 見ず知らずの人が読んでくれている。
- ・ ファイルし何度も読み返してくれていた人もいる。
- ・ そのうえメールまでいただいた。

見えないところで人とつながり、人のお役に立てていたと知る。これまでレポートを書き続けてきて良かったと思いました。

私のレポートには、身近に素晴らしいお手本があります。

①「東京アブレイザルニュース」(発行人・芳賀則人氏 現在 204号)

②「野口レポート」(発行人・野口賢次氏 現在 192号)

どちらも数あるニュース・レポートの中にあって、発行人の豊かな感性で書かれた異色のものです。レベルの高さまは真似できなくても、せめて自分らしいレポートにしたいと思って書き始めました。

私の第一話のタイトルは「守るべきは家ではなく家族」でした。10年前、私が不動産・金融コンサルタントとしてかかわったケースです。しっかり者ゆえに1人で家計をやくりし多重債務者になってしまった妻とその家族の協力と再生を書きました。老人介護の仕事をしていた妻の言葉が耳に残っています。「病院で寝たきりのお年よりにくれば私はまだ幸せです。たとえ沢庵とお茶漬けだけでも、食べたい時に食べられますから。借金はどうなことをしても返していきます。」今でも家族づきあいが続いていて、今回はいただいた励ましの手紙に涙しました。

以後、自分がかかわったケースから気づいたこと・感じたことを書くように心がけてきました。途中、レポートを仕事につなげたい下心が芽生え知識やテクニックに傾いたこともありましたが、営業ツールとしてのレポートにしなくて良かったと思います。これも相続がきわめて人間くさい問題であることを気づかせてくださった2つのお手本のおかげです。

理屈っぽく、独りよがりの未熟な文章も多くあります。でも、書くことの大変さと共に、書き上げる楽しさも知りました。書くことで自分自身を知り、自分自身を知ってもらうこともできました。いつか子供たちが読み、仕事への理解と共に「こんな父親だったのか」と知ってくれるのも楽しみです。回を重ねるうちに、三商レポートは私にとっての「自分史」になっていました。8年にわたってひっそりと書き続けてきたレポートも、おかげさまで第九十八話まで来ました。読者からの励ましに力を得て、第100話までは頑張りたいと思います。いただいたメールにより、これまでやってきたことが報われた気がします。また、誇りを持ってもいいのだと気づかせていただき、どのメールも私の「宝物」になりました。仕事をしながら、知らぬ間に宝物の持ち主になっていたことは幸せなことです。ご本人のご了解をいただき、メールのひとつを原文のまま転載させていただきます。

(2012年9月1日)

(W 様からのメールの全文)

株式会社 三商 内藤 雄様

初めてメールを差し上げます。

毎月よみうり My town で続・木漏れ日を読ませていただき、相続の知識・アドバイスをいただいただけでなく、温かな言葉に胸を熱くしておりました者でございます。

三年前に主人が 54 歳で急死し、その後、義父が亡くなり、辛い相続問題が起こったことで、より深く毎回のご寄稿を拝読しておりました。

自分の体験と似たものや、心のあり方、励ましとなったものは切り抜き、大切に何度も手許に置いて読ませていただいていた。

その中、先日の最新号でお体のことが書かれ、一読者ではありますが心配と共に驚きを覚え、またそのことを淡々と公にされたことに涙が込み上げ止りませんでした。

「死別体験の意味づけ」では、悲しみ苦しんでばかりいた私の中で、現実の受け入れと気づきを教えていただき、これは何か私にも意味があったのだと考えさせられ始めるきっかけとなりました。

「大震災と八千のりのひとしづく」では自分のできることをやること、

「相続するのは誰か」ではその家の今までの問題が相続に現れるという現実を具体例を持って教えていただきました。

我が家も、まさに一人娘が代襲相続者となったものの、亡夫の実家から相続放棄を強要され、また暗にお墓に入れないことを示唆され絶望の淵にいた時のことです。

そして「相続は成長への試練」では、内藤様の文章から、あの辛かった相続からも学ぶことがあったのだ、自分も様々なことを乗り越え、少なからず自己成長出来たのだとわかり、理解してくださる方がいるのだと、涙が流れました。

HP 内での「二つの折り」からは、人生のこれからの私の座右の銘となる言葉も教えていただきました。解決資源は自分が持っていることも。 そんな先生にガンという病魔が取り付くとは…。

「死ぬことと生きること」最終話にも大切なことがたくさん書かれ詰まっていました。これからもずっと心あたたく親身になって聴いていただく方が必要であったのに、私達はこれからどうしたらよいでしょう。

ホームページを見せていただき、相続知識検定というものがあることを知りました。今までの体験を生かし、講座を受け試験にチャレンジしてみようと思います。先生の文章から、目標を失っておりました私に勇気と前を向く力をいただきました。相続の方は、義姉に対し一年がかりで娘のために粘り、先日ようやく解決をみました。相続には感謝と譲る気持ちが大切だと、身を持って経験しました。いつか実践を体験したのものとして、誰かの役に立ちたいと思えるまでになりました。こう考えられるようになったのも、内藤先生の書かれたお話のお蔭だと思っています。どうぞ病気の治療に専念なさいながら、一日も早く迷える市民のためにお力を貸して下さいますようお願いを祈り申し上げます。面識もない一読書のメールがお目にとまるか分かりませんが、今の気持ちを書かせていただきました。ありがとうございました。

国分寺市 W.Y